



平成29年度全国学力・学習状況調査

調査結果・指導改善のポイント【概要版】

平成29年12月 岩見沢市教育委員会

学力調査の結果より

1 岩見沢市・北海道・全国の調査結果

(1) 平均正答率による比較 (%)

児童生徒	項目	国語 A	国語 B	算・数 A	算・数 B
小学校 6年生	岩見沢市	75	56	79	46
	北海道（公立）	74	56	77	44
	全国（公立）	74.8	57.5	78.6	45.9
中学校 3年生	岩見沢市	77	72	67	49
	北海道（公立）	77	72	64	47
	全国（公立）	77.4	72.2	64.6	48.1

(2) 全国の平均正答率を100とした場合の数値による比較

児童生徒	項目	国語 A	国語 B	算・数 A	算・数 B
小学校 6年生	岩見沢市	100.3	97.4	100.5	100.2
	北海道（公立）	98.9	97.4	98.0	95.9
	全国（公立）	100.0	100.0	100.0	100.0
中学校 3年生	岩見沢市	99.5	99.7	103.7	101.9
	北海道（公立）	99.5	99.7	99.1	97.7
	全国（公立）	100.0	100.0	100.0	100.0

2 岩見沢市における児童・生徒の調査結果

小学校 6年生	国語A、算数A、算数Bは全国平均とほぼ同様の結果です。 国語Bは全国平均をやや下回っています。
中学校 3年生	数学Aは全国平均を上回り、数学Bは全国平均をやや上回っています。 国語A、国語Bは全国平均とほぼ同様の結果です。

質問紙調査の結果に基づく指導改善のポイント

1 徹底した「日常授業の改善」の取組

各学校において「日常授業の改善」を組織的な学校改善の中核として位置付け、徹底して取り組んでいくことが重要である。

(1) 「教えて考えさせる」授業の学校全体での展開

- ① 思考とアウトプットの活動（書く、説明する、話し合う）が明確な授業
- ② 「ねらい」とねらいに正対した「まとめ」が明確な授業
- ③ 「振り返り」を書くことによる自らの思考過程を客観視できる授業

- (2) 「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学校風土の醸成（児童生徒はもとより教師の教育観、指導観の転換）
- (3) 学習規律、教室環境などの統一（ユニバーサルデザイン）

2 学力向上の取組の一層の推進

各学校において、検証改善サイクルによる学力向上の組織的な取組に継続的に取り組んでいくことが重要である。

- (1) 教育課程の工夫・改善
- (2) 学力の数値目標の設定と評価
- (3) 練習問題（ドリル）の徹底による習熟の深化
- (4) 朝・放課後学習や長期休業中の学習等の学習の場の提供
- (5) 宿題・家庭学習の充実による学習習慣の定着

3 小中連携による学力向上の取組の確実な実行

小・中学校の教職員が、義務教育9年間を見通して子どもたちに学力を身に付けさせるために連携強化を図ることが重要である。

- (1) 標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流
- (2) 小学校卒業時と中学校入学後の成績の比較検討
- (3) 小・中学校で統一した学力向上の取組の実施

4 子どもの自尊感情・自己有用感・達成感・規範意識等を育てる取組の推進

学校生活において自己有用感や規範意識を高める取組を推進し、子どもたちの「学びに向かう力」を高めることが重要である。

- (1) 規範意識が高い児童生徒ほど自尊感情が高いという研究結果を踏まえた、教職員の共通理解に基づく学校のきまりを守る指導の継続
- (2) 授業や行事等の教育活動で、児童生徒に自信をもたせたり、達成感を味わわせたり、自分のよさに気付かせたりする活動の意図的な計画
- (3) 生徒指導の機能を生かした「わかる」授業づくりの継続
- (4) 子どもが自分のよさに気付く道徳科の授業づくりの深化
- (5) 「hyper-QUよりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」を活用した実態把握、ピア・サポートによる支持的風土の醸成

5 子どもたちの基本的な生活習慣の定着

学校、家庭、地域が一体となり子どもたちの基本的な生活習慣を定着させることは、「学力向上」において欠くことができない。～「家庭での5つの約束」の徹底

6 「家庭力」「地域力」の更なる向上

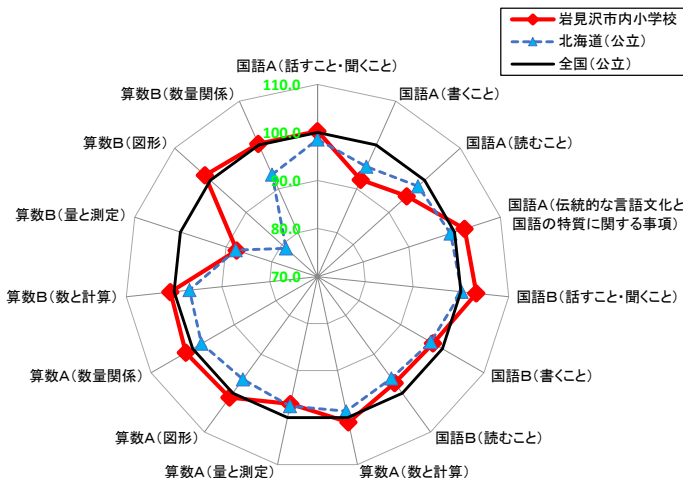
夜遅くまで起きている子ども、ゲームをする時間やスマートフォンの使用時間が長い子どもの増加、家族と話す時間の減少等、生活習慣に関する「新たな課題」への対策が必要である。

- (1) 家庭における、子どもが社会性や自律性を身に付け、自らの生活習慣を改善しようとする姿勢の醸成
- (2) 地域子ども会、地域行事、関係機関、PTA等との連携により子どもたちの地域や社会への関心を高める地域ぐるみの子育て推進体制の構築

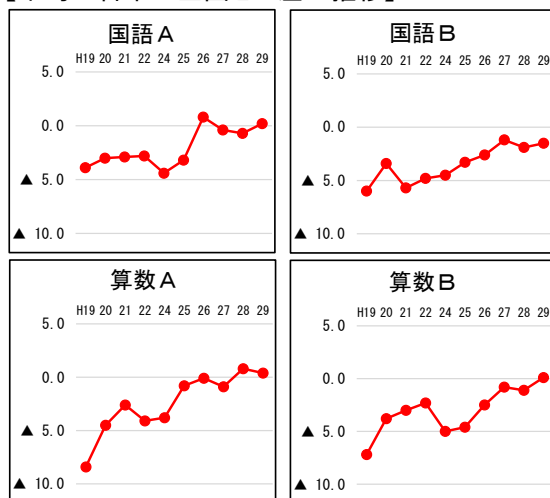
■岩見沢市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:15校、児童数:582人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率の全国との差の推移】

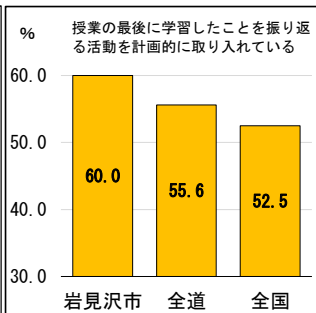
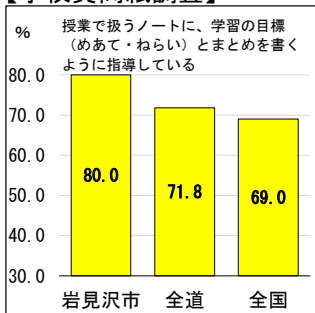


※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

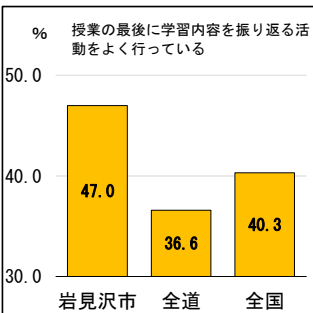
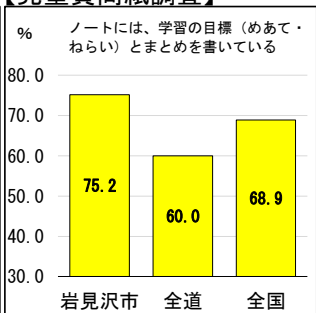
<平均正答率>

国語A	国語B	算数A	算数B
75	56	79	46

【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。 ○ 算数A・Bでは、「数と計算」「図形」「数量関係」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書き指導を充実した結果、ノートに学習の目標とまとめを書いている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。 ○ 授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れ、指導を工夫した結果、学習内容を振り返る活動をよく行っている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。 ○ 「教えて考えさせる」授業の導入や教職員の資質・能力の向上を図る研修機会を充実した結果、日常の授業改善が図られ、国語A、算数A・Bで全国の平均正答率を上回り、国語Bで全国との差が縮まったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

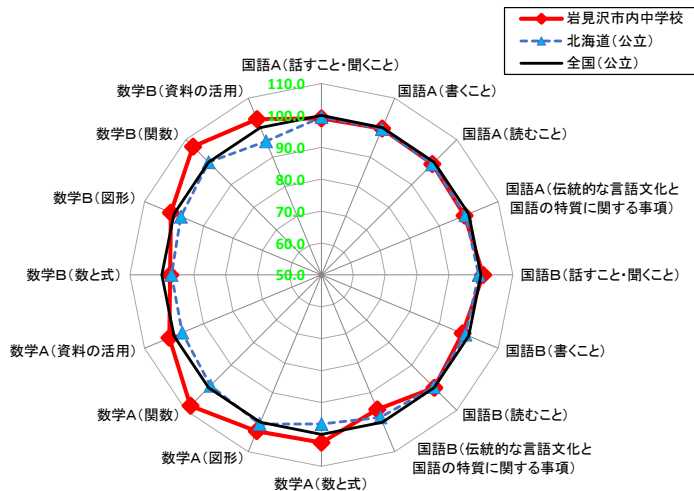
【岩見沢市の学力向上策】

- ◎ すべての小・中学校における「教えて考えさせる」授業の導入
- ◎ 学校が企画する学力向上策等を支援する「子どもがかがやく学校活動支援事業」の実施
- ◎ 教育大学と連携した研修講座など、教職員の資質・向上を図る研修機会の充実
- ◎ 学校が自主的に行う公開研究会を支援する「授業づくりのまち岩見沢」の実施
- ◎ 学びの連続性を踏まえ、中学校区別学力向上担当者会議の開催
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果の市民への数値での公表、市内全教員への岩見沢市の調査結果概要版の配付
- ◎ 授業スタイル、学習習慣、教室環境等の統一を図り、組織的な学校運営を進める学校力向上の取組の全校での実施
- ◎ 放課後及び長期休業期間等における補充的な学習サポートの実施
- ◎ 読書習慣の確立のための朝(昼)読書の実施

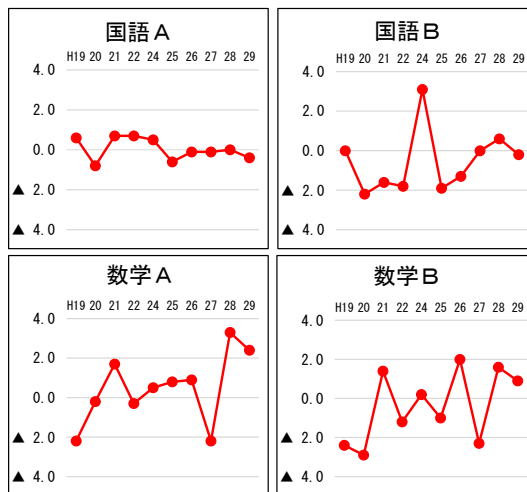
■岩見沢市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:10校、生徒数:657人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



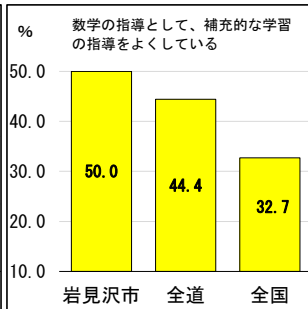
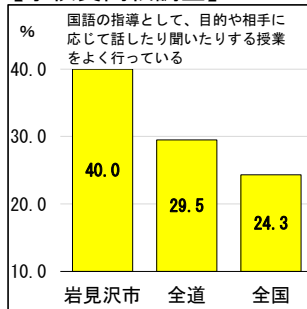
【平均正答率の全国との差の推移】



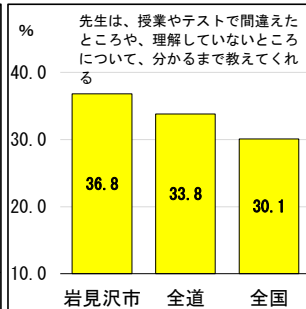
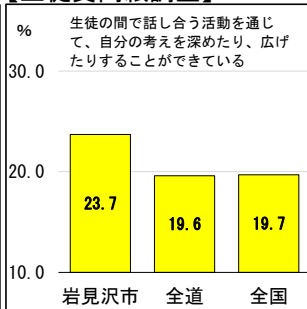
※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化
<平均正答率>

国語A	国語B	算数A	算数B
77	72	67	49

【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Bでは、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。 ○ 数学Aでは、すべての領域、Bでは、「図形」「関数」「資料の活用」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行った結果、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学の指導として、補充的な学習の指導をよく行った結果、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれると思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の指導として、補充的な学習の指導をよくしている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教えて考えさせる」授業の導入や教職員の資質・能力の向上を図る研修機会を充実した結果、日常の授業改善が図られ、数学A・Bで全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【岩見沢市の学力向上策】

- ◎ すべての小・中学校における「教えて考えさせる」授業の導入
- ◎ 学校が企画する学力向上策等を支援する「子どもががやく学校活動支援事業」の実施
- ◎ 教育大学と連携した研修講座など、教職員の資質・向上を図る研修機会の充実
- ◎ 学校が自主的に行う公開研究会を支援する「授業づくりのまち岩見沢」の実施
- ◎ 学びの連続性を踏まえ、中学校区別学力向上担当者会議の開催
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果の市民への数値での公表、市内全教員への岩見沢市の調査結果概要版の配付
- ◎ 授業スタイル、学習習慣、教室環境等の統一を図り、組織的な学校運営を進める学校力向上の取組の全校での実施
- ◎ 放課後及び長期休業期間等における補充的な学習サポートの実施
- ◎ 土曜学習会(S-スタディ)の実施
- ◎ 読書習慣の確立のための朝(昼)読書の実施